

がんばりたい気持ちを
後押ししてくれる会社に
出合うことができたから
仕事が楽しい!

企画営業部 設計 中小川 泰弘



一人ひとりの能力を
伸ばすことができたら
お客様にとっても会社にとっても
幸せな未来が描けるはず。

代表取締役会長 有澤 廣己

**会長 小山は有澤建設をどんな会社だと
思う?**

小山 知識ゼロで入社をしたので少し心配して
いたのですが、どの部署の人も話しかけや
すい雰囲気なので正直ホッとしました。結果
を出せばやり方は自由という社風も気に入っ
ています。半面、自分の裁量が大きい分、モラル
や働き方の管理をしつかりしないといけない

建物概要

◎古賀ゴルフ・クラブ
コース管理棟

用途／分類：事務所
竣工年：2017年
建築地：古賀市鹿部
構造：木造
規模：平屋



個別ごたつスタイルでくつろげる会議室兼休憩所は大人気での利用も可能

10年ぐらいしていたんですが、お客さまとお話ををしてゼロから図面を引く仕事をしたいなって考えるようになつて転職しました。有澤建設は総合建築業という職種の中で昔から地元に根付いている会社であり歴史もあるのですが、良い意味でゼネコンっぽくないといふか、ものづくり集団というか、こだわった建
会長 人はみんな能力を持っているから幹に当てはめたらもつたいないよね。小山も営業上を目指してチャレンジしたい人はどんどん応援するし、有澤建設はホールディングス制だから起業したい人は会社がバックアップもできるからね。

会長 小山は今回初めて中小川と仕事をして、どんな印象を持った?

小山 施主さまに提案する中小川さんの姿を見て、すうまいと思いました。自分の考えを伝えるということは、発言するだけの知識と経験がないと言葉として出てこないと思うんで



室内ドアに木目調のデザインを採用し内装がやわらかく、雰囲気に一層長の窓から入り込む光がモダンな春輝気。



以上は金剛宝杖供養の本尊阿彌陀如来



Episode File 002

【本翼グループ：クラブコース管理棟】

みんながやさしく見守ってくれるから
勇気を出して、前へ進むことができた！

〔廢話会司会進行〕企画営業部 小山 未緒



2階建てにすると圧迫感が出るかなと考えました。場内松林の中に静かに佇む建物にしたかったので、周囲に溶け込むように建物全体の高さを低くして、部分的に木目調の外壁を採用しました。

小山 「日本オープンゴルフ選手権競技2019」の会場に選ばれている古賀ゴルフクラブさまですが、今回、敷地内にあるコース管理棟の設計と施工を有澤建設が担当させさせていただきました。中小川さん、設計の際に工夫した点を教えていただけますか？

中小川 管理棟はいわば事務所ですが、ゴルフ場で働く皆さんにとって気持ち良く仕事をしてもらいたいし、時には体を休ませる場所でもあると思うんです。心も身体も育てる空間にするなら無機質になりがちな事務所もドアに明るい木目を採用し、あたたかく、やらかい雰囲気に仕上げました。また「畳の部屋がほしい」とオーダーをいただいたのですが、身体を横にできる畳に加えて掘りこたつ式のテーブル席があれば、スタッフの皆さんのがお昼ご飯を食べたり、会議をする時など足を解放できるかと思い、提案させていただきました。

小山 外観について工夫した点はありますか？

中小川 当初は2階建ての要望もあったのですが、有澤会長と相談してあって平屋でご提案させていただきました。

会長 管理棟があるこの建物の位置は、ちょうど9番ホールから少し見えてしまいました。

社員のチャレンジを全力で応援して
楽しい未来をつくりていく社風

リードに話しかけてくださるんです。だから私も話しかけやすいし、会長と話をしていると、長年、一級建築士として第一線でお仕事をされてきたアンテナの感度の高さやプロ意識を肌で感じ、私もがんばろうとたくさんのお刺激をもらっています。

会長 小山は絶務から異動してもうすぐ一年が経つけど、営業部での仕事はどう？

小山 工事の前に行なう近隣の方へのごあいさつや地鎮祭の司会など人と会う機会が増えて言葉遣いをより気をつけるようになります。

会長 地鎮祭の司会を女性がするのは珍しいんだけど、小山が担当をすることでき鎮祭の雰囲気が柔らかくなつたと施主さまからも好評！ それに小山は相手の本音を引き出す能力に長けているから今後の活躍が楽しみだね。

ARISAWA the SELECT

有澤建設がセレクトした、さまざまな“モノ”や“コト”をご紹介します。



リニューアル事業部
坂井 信一郎
二級建築士

定期診断の方法について

玄関先と庭にある污水樹へますにについて
定期診断の方法について

玄関先の樹のようにフィルター（黒い部分）がついている場合はそれを引っ張つて中身を捨てればOK。庭先の樹のようにフィルターがない場合は水を小さなバケツでくった後、スコップで泥を撒き出します。

Hot column ほっとコラム

「啄喙同時」を意識する。



「啄」とは鳥の雛が卵から産まれ出ようとする時に殻の内側から声や音を発すること、「啄」とはその時に親鳥が外から殻をついてこれを助けることを言います。この啄が同時であって初めて雛の誕生となります。

そこで諺語においてこの「啄喙同時」とは、悟りを開こうとしている弟子に対し師匠が上手に教示を与える悟りの境地へ導くことを意味するとされています。

この教えは親と子、或は企業内の上司と部下との間のコミュニケーションなどにおけるそのタイミングの大切さを伝えています。また敷衍（ふえん）して取引先などの利害関係者とのコミュニケーションにおいてもこの教えは活かされることになりそうです。

「啄喙同時」を意識することにより、より良い経営成果に繋がる経営環境が生まれることを期待するところです。



株式会社アリサワ
代表 篠原 俊
(有澤建設顧問税理士)

長く快適に住んでいただくために、
有澤建設では10年目の節目に建物の定期診断を行っています。

有澤建設では10年目の節目に建物の定期診

断を行っております。10年になると気づかないところに不具合が出てくるもので、それを少しずつメンテナンスすることで、長く快適に住めるようになります。今回は10年目建物診断を行った日邸の事例をご紹介します。

玄関先の樹は、10年分の砂がたまつておりました。放置していると雨の日そこから汚水があふれだしたり、そこに溜まった汚水から悪臭がでる原因となります。庭先の樹には写真のように芝生の根がへばりついていました。同様に砂と根を取り除くことで、雨の日水はけの悪かった庭も改善されました。見落としがちな部分ですが、定期的な除去作業をおすすめします。

仕合わせ な手紙

Connecting feelings and feelings

より良い現場をつくるために、メンバーに対しての想いを手紙を通して伝えていきます。

岩永と初めて会ったのは、3年ほど前。

中途採用で入社した当時の岩永は、まるで岩永の流れはわかつてないものの、図面の見方やまとめ方はあまり理解できていなかった印象だった。

現場監督の仕事とは、現場の条件をすべて受け入れ、

全体をまとめるリーダーであるべきだと岩永は考えている。そのためには、どんな現場に直面しても自信を持てるくらいの経験を積み、自分の個性をしっかりと活かしていくことが大事だと思つて。

だから僕は、岩永に何かと注意し続けた。強く言った部分もあつた。「教えてもらつてすぐに答えるのであれば覚えないだろうから、自分なりに考えて、それでもわからないなら聞きに来い」。

——そう言い続けた。

2年間、3つの現場で一緒に働き、そして去年、岩永は一人立ちをした。

一人で現場をこなせるようになった今、岩永はどんな思いで毎日仕事をしているのだろうか。

現場を一人で背負うことの難しさに直面しているのではないかと思う。

一緒に働いた現場のメンテナンス報告のために、岩永は時々連絡をくれるが、岩永と接していると、極力、自分で考えて行動していくことと考えているのが何となく伝わってくる。

現場の立地や作業に間わる人、建物の用途など、様々な理由で現場の条件や雰囲気は変わつてくるが、たくさんの経験を積んでさらに成長をしてほしい。くじけずに、がんばれ！



企画工務部
岩永 章伸
一級建築士・一級建築施行管理技士

川端曰く「岩永は根性があって、できないことは夜遅く残ってでもとこん作案するがんばり屋。最後までやり遂げる力はすごい！」。



企画工務部
川端 俊和
一級建築施行管理技士

川端は、P11でご紹介した「中洲ホテルプロジェクト新築工事」の現場監督でもある。「川端さんは有澤建設の中でも現場監督が長く、職人さんからの信頼がとても厚いんです！」と岩永。

私がレポートしてきました！

企画営業部

内海 まゆみ 宅地建物取引士

注文住宅のモデルハウスで営業業務を経験後、今年4月に有澤建設へ転職。ビルオーナーが参加する月に一度の定例会議に先輩とともに出席している。「入社して初めて建設中の現場を見に来ました！楽しめます！」



現場から進捗状況をレポートします！



①玄関ホール側から建築状況を見上げる。取材当時は3階まで進んでいました。②安全帯を付けての作業。安全対策もしっかりと意識しています。③現場監督の川端さんにインタビュー。優しく教えていただきました。④4階フロア部分の施工中の様子。ビルに囲まれる中での作業には慎重さが必要。⑤工事の進行状況を見る現場監督の川端さん。



福岡観光の拠点となる
新しいホテルが、
来年の7月に開業！

建物概要	
◎(仮称)中洲ホテル	プロジェクト新築工事
用途／分類: ホテル	
竣工年: 2018年	
建築地: 福岡市博多区	
構造: RC造	
規模: 13階建て	

管理が重要になってくるそうです。
例えば、あるひとつ協力業者さんの作業が遅れるとき次の工程を受け持つ協力業者さんのスケジュールが押してしまうため、遅れそうな協力業者さんは作業人員を増やしていくだけではなくお願いをするのも現場監督の仕事なのだから。各協力業者さんがスムーズに作業ができる環境づくりが主な仕事なのだそうです。
川端さんは現場監督の楽しさと大変さを聞いてみると、「一番うれしいのは、建物が完成した時。この時の達成感は、言葉で言い表せないほどの喜びで胸がいっぱいになります。また、ビルのオーナーさまにねぎらいの言葉をいただいたときは、この仕事を就いてよかったと誇りに思ふ瞬間。次の現場でもがんばろうとする気運もあるんです。そのため常に心を引き締めながら仕事を取り組んでいます」。
私は前面を引いたり、バースをつくる設計のお手伝いもしているのですが、今後はもっと現場寄りの仕事をしてみたいと現場に来て気持ちがワクワクしてきました。2018年の6月に竣工し、7月にオープン予定のこちらのホテル皆さん、どうぞお楽しみに。

今回紹介するのは、中洲の那珂川沿いに建築中の「こちらのホテル！」コンセプトは「博多らしさ」で、外観やロビー周辺に博多織のモチーフを取り入れた建物で、有澤建設が施工を担当しています。レストランも併設するので、ファミリーや海外の人たちにも喜んでいただけるホテルになりそうです。
実は、誌面を通して案内している私も今日が初めての現場デビュー。いつもは営業業務という職種柄、契約書など書類をつくったり、こちらのビルや他ビルのオーナーさまとお話をすると月に一度の定例会議に参加するなど、日々サポート業務に努めています。図面上では何度も見ている「こちらのビルですが、つづっている過程を間近で見ると「客室やロビー」の位置はここになるんだ」と立体的に見えてきてとても興味深いです。
今日は、以前から疑問に思っていたことを現場監督の川端さんに質問。「ビルを建てる時に携わる現場の人数はどのくらいですか？」川端さんは「ビルの規模にもよるけれど、累計10,000～20,000人は超えます」と教えてくれました。「一つの建物を建てるとき、基礎工事、内装仕上げ工事、左官工事、電気工事、大工工事など様々な協力業者さんには声をかけますが、業種だけで20社以上と一緒に仕事をしています」と川端さんは。建物は段階を経てしていくので、すべての現場で「工程管理」という納期までのスケジュール

Voice of the top

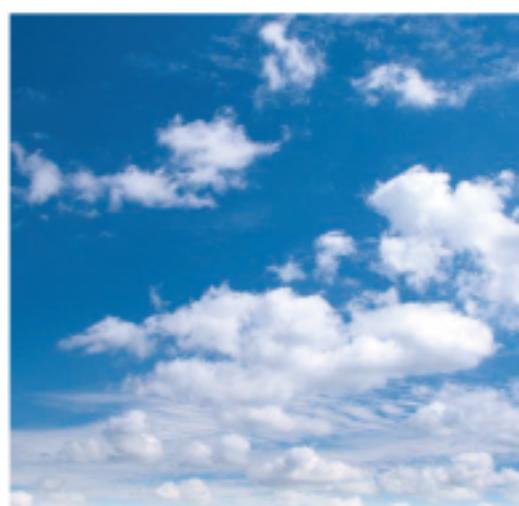
すべては現在につながっている

今「未来の年表」という本が話題になっています。人口減少が着実に進んでいる日本の未来を、政府のデータや推計値を通して予測している内容です。日本の問題としてすでに誰もが聞いたことがある少子高齢化や人口減少が、未来にどう影響していくのか具体的に書かれたこの本によると、この問題の社会への影響は想像以上のものです。建設業界でもすでに人材不足は起こっており現場でも採用に苦労しておりますが、これから更に難しくなっていくでしょう。もちろん、我々は人が住まう場所を造っているのですから、案件の数も人口減少と共に減少していくことは想像に難くありません。しかし、こうした未来に生きていくからこそ、しっかりと課題に直面すれば我々がやらなければいけないことが見えてきます。

今年9月を以って当社も101年目に入りました。ここまで来られたのは今まで支えてくれたお客様、協力業者さま、そして社員のおかげだと改めて感謝いたします。多くの支えを頂きその積み重ねで当社が100年後の現在に到達できたのだと感じます。100年の間、時代の大波にさらされながら多くの支援を受けて会社を続けていくことができました。これから東京オリンピックを迎える、「未来の年表」がうたっているように時代の激変が起こると予想されます。そのような時流にしっかりと乗りつつも大切にすべきものは変わらず「不易流行」で荒波を乗り越えてまいりたいと考えております。

代表取締役社長

木下 英資



人とひとの想いを次の100年へ
ARISAWA | 100th Anniversary

arisawa topics

有澤建設で最近話題になった様々な出来事をお紹介します。

001



吉川統括所長へ
還暦祝として
赤いボロシャツ贈呈。



某月1日、全体会議にて吉川統括所長の還暦祝に赤いボロシャツを贈呈。「企業の影響で建築の世界に身を置き40年以上。今出来る事を大切に。その場面で精一杯」を心がけてきた日々「そう語る吉川の言葉を印象づけるエピソードがあります。

現場所長として初めて現場を受け持った時の事、足場シートの張り方にこだわった所長の言葉。吉川は一人徹夜でシートを張替えたそうです。「翌朝、周りの人が驚いていた事が印象に残っています」と当時を振り返っていました。

また、同じ現場で吉川の元で働いた山下主任は「誰よりも資材や道具を大切に扱うことのできる方」と語ります。工事現場で使うカラーコーンは現場が始まるごとに買い換えるのが通例ですが、吉川は「一つ一つ手入れして何年も使っています。建物はお客様が長い期間、また一生をかけて大切にされるもの。同じ様に大切にされる場面で精一杯」という吉川の信念は後輩にしっかりと受け継がれています。

(総務部 廣瀬千智)

002



有澤のニューフェイス
紹介いたします。
藤吉さんを



藤吉さんは、アルバイトを経て社員になつたばかり。そんな藤吉さんに現在の心境をインタビューしてもらいました。
吉アルバイトから社員になり、何か変化はありますか?
藤吉:今まででは作業が中心ででしたが、材料の手配や報告書などの書類関係も任せてもらえて、ようになり、この仕事の難しさが少し分かるようになりました。
吉:そうなんですね、そんな中、毎日何を心がけていますか?
藤吉:どんな時も、職人さんの安全を守るために設備を整えたり声かけをしたりといふことは欠かさずに行っています。また、疑問に思ったことは和田所長や小野常務にすぐに確認するようになります。

吉:安全への取り組みと日々の前進には一切妥協しないということですね。では、今後の目標を教えて下さい。

藤吉:現在の現場が来年までの目標を教えて下さい。

建設業に従事するものは厚生労働省指導のもと、労働安全衛生対策に取り組んでいます。が、安全を意識しても危険と隣り合わせの建設現場では労働災害が起ることもあります。

本大会は、労働災害防止のための取り組みを過去一年間のオ講習などで、再度安全衛生管理の重要性を認識することを目的に、年に一度、企画工務部主催にて開催されます。

当日は多忙の中、朝から多くの協力業者様にご参加頂きました。今回の体験発表は企画工務部岩水、7月に現場作業員が軽度の熱中症で倒れた際のお話でした。ちょっとした気の緩み複数の不注意や不備等が重なり、重大な事故に繋がる危険性を秘めていることを改めて認識。参加者みなさまにも身近に感じられた事案だと思いま

す。

その後優良協力業者様、優良作業所の表彰。作業員ひとりひとりの努力に感謝致します。
これからも弊社はみなさまのサポートの中、安心して働ける快適な職場環境づくりを推進し、労働災害ゼロを目指します。

(総務部 福田博美)

003



アミカスホールにて
開催されました。